

2年 図画工作科学習指導案

授業者 下出 菜摘

1. 題材名 「ふわもち ぺったん なにがうまれる？」 (A表現(1)ア造形遊び)

2. 題材の目標

○泡の感じを楽しみながら、泡に色を混ぜていく過程で、多様な模様が生まれたり、色を付けた泡に紙を付けると、その泡にできた模様が様子を変えて転写されたりすることに気付き、表したいことに合わせた表し方を工夫して、即興的・創発的に表現する。 [知識及び技能]

○泡と色が混ざっていく過程で生まれる現象の多様さやその模様が様子を変えて紙に転写されることをもとに、即興的・創発的に発想したり構想したり、表したいことに合わせた表し方などについて考えたりしながら、自分の見方や感じ方を広げたり、深めたりする。 [思考力、判断力、表現力等]

○泡の感じを楽しむ過程で、色を混ぜた泡の中で生ましていく現象や多様な模様、模様を紙に転写して生まれる表現など、泡から生ましていく表現に面白さやよさを見出し、試行錯誤しながら表現しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、日頃から、折り紙をはじめ、セロハンテープや段ボールといった身近にある材を使用したものづくりに興味を示している。それは、即興的に取り組んでいたことから目的が生まれ、主題につながっていく場合もあれば、遊びや係の仕事に必要なアイテムといった目的が先行している場合の両面がある。その中で、できたものによさを見出したり、納得感を得ていったりすると、仲間に「見て！ここがこうなってね…」と感動を共有しようと働きかける子も多い。「いいね！」「すごいね！」と価値づけされたり、「〇〇みたいで素敵！」「どうして〇〇にしたの？」などと意味づけや問い合わせをされたりすると、自信をにじませた表情でおもいを語ったり、何かをひらめいたように動き出したりする姿もある。子どもにとって仲間との関わりは、自分の表現したものによさを認める自己肯定感や自信といったおもいにつながる部分を肥やし、創発的な発想を生み出すきっかけにもなり得るのだろう。

子どもは、休み時間に足を運んだ運動場やテラス、また給食中などでも、いいなと思う容器やパック、木や葉、石などを見つけると、何かに使えそうな材料として宝物のように大事に保管している。中には、テラスに咲いていた大きな菜の花を見て、トンネルのような秘密基地をつくりたいというおもいをいだき、試行錯誤しながら仲間と共同してそのおもいを実現する子や、枯れていた植物の茎の中が空洞になっていることに気付き、その空洞を利用した流れる道をつくりたいと、教師の協力を求める子もいた。また、図画工作科「ちぎってぺったん」の学習では、ちぎったお花紙の敷物として配布した大きなビニール袋に、穴を開けて衣服として活用するなど、豊かな発想で材と関わっている姿もあった。このようにものやことに自分なりの価値や面白さを見出し、自ら働きかけていく子どもにとって、身の回りのあらゆるもののが材となり、それらは可能性に満ちた魅力的なものとして、彼らの目に映っている。またこれまでの図画工作科において、てのひらを使って大胆に絵の具を混ぜたり、両手に絵の具を付けて、はたいたりするなど、手や指を道具として使っている子どもの姿があった。これは、手指の感覚を通じて材と直接的にふれ合い、その素材感を味わいたいという気持ちの表れであると捉えている。五感を通して材の可能性を探る子どもだからこそ、材と存分にふれ合うことを通して、新たな価値を見出していくことは、容器やパックなどの身の回りのものや、それらを使ってできることに対する見方を広げ、表現を豊かに楽しんでいくことにつながるだろう。

本題材「ふわもち ぺったん なにがうまれる？」では、主な材としてシェービングフォームを扱う。手や体、お皿などを洗う時に生まれる泡をはじめ、「泡」自体は、子どもの日常生活でも馴染みがあるだろう。しかし、同じ「泡」でも、シェービングフォームの泡は、身近な「泡」にはない濃密さと、ある

程度の形が保持できるという特徴がある。扱いも容易で直接肌でふれ合うことが可能な材でもある。このような未知の質感をもつ「泡」との五感を通しての出会いは、子どもに驚きと発見を与え、ものやことに対する新たな感動をもたらすだろう。シェービングフォームの質感を楽しむ中で、材との関わりを深め、泡のもつ価値や可能性を探りながら、新たな表現をおもいついたり、つくり方を考えたりしていくことができるのではないかと考える。シェービングフォームに加えて3色（ピンク、黄色、青）のカラーインクとの出会いも設定する。この3色は、組み合わせ方次第で様々な色をつくることができる。そのため、色という視点から、調合における混色の気付きにもつなげることができると考えた。泡とカラーインクを組み合わせることによって、白い泡だけでは生まれなかつた新たな表現を見つけることができるだろう。泡の性質上、落としたインク同士がすぐに混ざったり、インクが多方面に広がってじんできたりすることなく、泡と色が混ざっていく過程を十分に楽しむことができる。ある程度の意図的な操作もできるため、子どもが主題を表すことも容易だろう。泡とインクの動き、それに伴って表れる泡の形や泡上の模様、混ざりかけの色合いや色の変化など、動き、形、色などといった造形的な視点を働かせながら、次々と生まれてくる新しい表現によさや面白さを見出していくことができるだろう。

さらに今回は、そうして表現されていった泡に対して、紙をくっつけてできる新たな表現との出会いを設定する。インクが落とされ混ざった泡に紙をくっつけると、紙にそのインクが染み込んでいく。紙の表面についた泡を削ぐと、マーブリングのような模様が転写される。このような現象に驚きを示すと共に、その模様の綺麗さや不思議さに心を揺さぶられる子もいるだろう。そして、これまで表現してきたものが、新たな表現の材となり得ることにも気付き、材の可能性を見出す子どもの身の回りのものやことに対する見方を広げていくことにもつながるだろう。また、その紙に転写された模様は、目の前に広がる泡上の模様と、全くの同じにはならない。速乾性もあるため、一度転写した紙に別の模様を転写することも可能である。このように、泡上に多様な模様が生まれていくのも、転写した紙にひとつとして同じ模様が生まれないのも、この材の魅力である。だからこそ、主題が生まれると、色の落とし方や模様のつくり方を工夫したり、模様に模様を重ねたりするなどの試行錯誤が生まれていくと考える。最後は、そうして次々と生まれていった個人の表現を集めて、共同的な表現につなげていく。自分と仲間の表現をつなげて共同的に表現できる場は、互いの表現を鑑賞し合う交流の場ともなる。表現の相違点から、それぞれのおもいや表現のよさを感じ取ると共に、それらを組み合わせたとき、新たなものが創造されていくことの面白さに気付くことができるだろう。また、手元で見た時と、引いて見た時の感じ方の違いに気付いたり、全体の表現の一部として自分の表現が存在していることに価値を見出したりするなど、新しい表現のかたちを知ると共に、共同して活動をすることのよさも見出していくことも期待したい。

本題材を通して、材や材から生まれていく新たな表現と存分にふれ合い、そのよさを味わい楽しみながら造形的な視点を磨き、材や表現に対する見方を広げると共に、その子の見える世界が今よりももっと豊かなものへつながっていくことを期待している。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』

単元序盤、シェービングフォームと出会った子どもは、濃密な泡が形を伴って勢いよく噴き出てくる様子に驚きながらも、その様子に面白さを見出したり、泡を触ることで「ふわふわして気持ちいい」「もちもちしてかわいい」などと泡の質感を感じ取ったりしていく。出てくる泡を積み重ねて立体的な形をつくったり、トレイいっぱいに泡を敷き詰めたりするなど、泡の質感や生まれる形から発想を得て様々な表現を試していく中で、主題が生まれていく。主題が明確になってくると、白い泡への着色に興味を示す子もいるだろう。シェービングフォームに加えて3色のカラーインクと出合うと、白い泡だけでは表現できなかった新たなものが生まれることに気付き、更なる材の可能性を見出していく。手や割り箸を使って泡とインクが混ざっていく様子を捉えたり、「綿あめみたいで美味しい」と、混ぜることで生まれる表現に意味づけをしたりしていく。また、泡とインクが完全に混ざると単色の泡が生まれたり、同じ色を落としても、インクの配合量によって異なる色が生まれたりすることにも気付きを得るだ

ろう。気付きを知識として蓄えながら、その子ならではの造形的な視点を働かせて、おもいおもいの表現を楽しんでいく。その過程で生まれていく多様な模様や、色が連なっていく綺麗さに思わず手を止め、「ここ見て！めっちゃ綺麗！」とその感動を共有しようと仲間に働きかけることもあるだろう。感動を共感的に受け止めもらえる経験は、その子の自己肯定感を高める肥やしとなり、自分の中の「いい」に自信を与えることにつながるだろう。また、仲間の表現を目にしてすることで「もっとピンクを多くした方が綺麗かな」と自身の表現に立ち止まり、インクの落とし方や模様のつくり方を再考したり、「その色いいね！どうやってやったの？」と仲間の表現を価値づけながら、そのよさを自分の表現にも取り入れてみようと動き出したりすることもあるだろう。

単元中盤、泡と色で生まれた表現に対して、紙をくっつける表現と出合う。紙にくっついた色や模様のついた泡を削いでいくと、紙にインクが染みて模様が転写していることを知り、泡から生まれた模様に驚きとよさを見出す。即興的に試してみると「この部分、すっごく好き！」と、好きな表現を見つけたり、「べたっと付けたのと、ちょっと付けたので、こうなった！」と、紙の押し具合を調整したりして表現の違いを楽しんだりする。また、「逆さまにして見たら、ここ鳥みたいに見える！」と表現したものを見方を変えて生まれる表現に気付いたりして、おもいおもいの表現を楽しんでいく。その過程では、「こういう模様を出したい」というおもいがなかなか叶わない場面もあるだろう。主題が芽生えているからこそ、そのうまくいかなさに立ち止まり、色の配置や模様の出し方、紙の押し具合などを調整し、試行錯誤し始める。一方で、「この模様と同じができると思ったけど、こんな模様になった！これもなんかいいかも」と、思っていたものと異なる表現にもよさや面白さを見出し、自分の中の「いい」と感じる価値観の幅を広げていく子もいるだろう。仲間とのやり取りの中でも、「○○ちゃんのかわいいね、ゆめかわの世界みたい！」と価値づけや意味づけがなされていったり、表現の相違点を見つけていたりすることは、自身の表現に価値を見出し、自信を育むと共に、探究心と向上心が掻き立てられ、新たな表現を生み出すきっかけとなるだろう。こうして、新たな表現が次々と生まれていくと、手元に溜まった表現のその先を考え始める子も出てくるだろう。「この紙綺麗だから、しおりとかにしてプレゼントしたらどうかな？」「いっぱいつなげたら布みたいになって、服作れそうじゃない？」などと、創造性を働かせて表現してきたものの価値やよさを生かしたアイデアも挙げられるかもしれない。

単元終盤では、“表現のその先”に注目した「みんなでつなげたら何が生まれる？」と出合い、「みんなで」「つなげる」をキーワードにどんなことができそうか思考を巡らせていく。壁一面に表現を飾るスペースがあることや、ぶら下げることができそうな場所を見つけると、早速自分の表現を飾りに動き出す。自分の表現したものの近くに飾られた仲間の表現が一体となって飾られたときに、また異なる新しい表現が生まれていくことに気付き、新しい表現のかたちとそのよさを見出していく。その過程では、表現を通して、もの・こと・ひととの対話が密になり、近くに飾られている仲間の表現の色合や模様に注目し、造形的な視点を働かせながら自分の表現とのつながりを見出していく。自分なりの捉えだけでなく、「これはどういうイメージ？」「どうしてここに飾ったの？」などとその表現をした仲間のおもいにも耳を傾けようと働きかけることで、仲間の表現に対する捉えの更新と、自分の表現とのつながりを再解釈していくことにもつながっていく。共同的な場における捉えの更新と再解釈によって、手元にあるどの表現を、どんな向きで、どの位置に飾ろうかといった試行錯誤に、より一層の深みが生まれていくだろう。また、飾ったものを近くで見るだけでなく、離れた位置からも見ることで「離れて見たら、あそこなんか顔みたいに見える」と、表現の新しい楽しみ方にも出合っていったり、「ピンク系のエリアをもう少し増やしたいから、もっと模様つくってくる！」と新たに表現を生み出していくことになる。

本単元を通して、仲間の表現から新たな気付きを得たり、よさを取り入れて試したりすることを多く経験することで、仲間と関わることのよさを実感すると共に、自身の表現を肯定的に捉え、自己肯定感を高める肥やしにしていくのではないだろうか。その結果、表現や表現されたものに対する価値や可能性を広げ、より創造的な見方で世界を捉えていくことにつながるだろう。

5. 題材構想（全6時間扱い／本時は第③④時）

<教師の投げかけ>

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① <何が現れるかな？これでどんなものやことが生まれるかな？>

- ・風じやない？ ・ソフトクリームできたよ！
- ・気持ちいい！ずっと触ってたい・もちもちしてかわいい！
- ・泡を渦巻にしたら、ヘビになった！
- ・お菓子の家みたいのできた！ ・泡でケーキつくったよ！
- ・腕に泡をいっぱい付けたら、毛皮になった！
- ・色付けられないかな？色付いたらもっとかわいくなりそう！

② <こんなもの用意したよ どんなことできそう？>

- ・インク？泡に色付けられそう！・泡消えちゃわないかな？

<泡と色でどんなものやどんなことが生まれるかな？>

- ・ずっと混ぜてたら青い泡できた！
- ・何か実験みたい！
- ・綿あめみたいで食べちゃいたいくらい
- ・混ざりにくいけど、この模様すごくきれいだよ！
- ・もう少しピンク足してみようかな ・カラフルな海みたい！
- ・この模様とっておきたいな。残るのかな？

③④（本時） <泡と色でどんなものが生まれた？>

- ・色付きの泡を何種類か作って、くまとうさぎをつくったよ
- ・インクを落として混ぜたら、途中でこんな模様ができた

<紙を付けてみたら…？ 何が生まれるかな？>

- ・紙付けたら、泡壊れちゃうよ、付けて大丈夫？
- ・なんかめっちゃ綺麗なんだけど！早くやってみたい！
- ・べたっと付けたのと、ちょんって付けで違う模様できた！
- ・○○さんの天の川みたいでいいね！
- ・もう少し青、足したいな…
- ・泡の感じと模様が全然違うなあ、この模様出したいのに…
- ・思ったのと違うけど、なんかいいかも！
- ・いっぱいできたけど、どうする？

- ・すごく綺麗な模様がいっぱいできたから、飾りたい！
- ・しおりみたいにして、プレゼントしたらいいんじゃない？

⑤⑥ <「みんなでつなげたら何が生まれる？」>

- ・つなげるってことは、道とか？ ・大きな模様ができそう！
- ・つなげるなら、ぶら下げるのもできそうじゃない？

- ・あそこ、貼ってみたい！ ・ここにぶら下げようかな
- ・これは海で私のは森みたい！2人で1つの作品になった！
- ・よく見ると模様が全然違って面白い
- ・みんなの作品がひとつの作品みたい！
- ・もっと模様でいっぱいにしたいから、私ももっと作る！

- ・泡からいろんなものがうまれて楽しかったです。お気に入りなのは、泡ケーキと、カラフルな宇宙の模様です
- ・色を混ぜると、綺麗な模様がたくさんできて嬉しかった
- ・みんなで作品を飾るのも楽しかったし、○○君に、この形面白いね！と言われて嬉しかったです

○安全面を考慮し、「顔に向けないこと」「口に入れないこと」を確認する。

○材の香りやべたつき等を苦手とする子には、抵抗感を減らして材とかわわることができるよう、マスクや手袋を用意する。

○子どもが、できたものだけではなく、その過程の価値に気付けるように、「混ざりかけ」や「模様」に注目した価値づけや意味づけを積極的に行い、周りに広げていく。

○子どもが見つけた「綺麗」や「お気に入り」「いい」や「好き」を残しておけるように、iPadを使用した記録を推奨する。

○子どもの造形的な視点に働きかけるために、仲間の表現にふれる機会を設け、どんなところによさを見出したのかを問い合わせ、全体に広げる。

○子どもが活動の見通しをもてるよう、泡に紙をつけ、ひっくり返すところまで模範を示す。

○子どもが、泡から模様が生まれることに気付き、そのよさも見出すことができるよう、くついた泡を取り除こうとしていたり、転写された模様に気付いたりしている様子を捉え、価値づけや意味づけをする。

○子どもの思考や表現に広がりが生まれるよう、子どもからの表現の共有には、価値や意味づけだけでなく、問い合わせをしてかかわる。

○子どもが仲間との関わりによって、表現に広がりや深まりを生むよう、子ども同士をつなぐかかわりを意識する。

○子どもが「つなげる」について思考を巡らせる際のヒントとなるよう、多様な「つなげる」が実現できる環境を整える。

○子どもの造形的な視点を刺激し、表現の捉え方に広がりを生むことができるよう、様々な見方を提案し、そのよさや面白さを共有していく。

○子どもが、これまでの表現の中から、自分の中の「綺麗」や「お気に入り」を捉え、そのよさを再認識できるよう、記録をふり返ったり、仲間と共有できる時間を設けたりする。